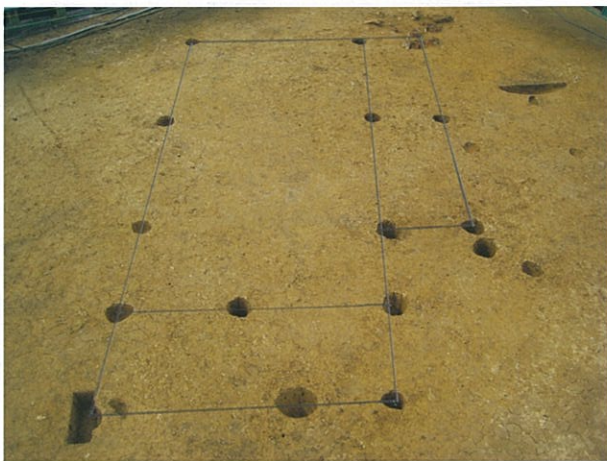


中世（鎌倉時代） 掘立柱建物7棟、井戸4基、土坑3基、溝（堀）1条が見つかりました。井戸や掘立柱建物、堀から出土した土器から13世紀の遺構です。

掘立柱建物 すべて84号溝（堀）の東側で検出されました。建物の向きは、ほぼ南北方向で同じです。

126号建物 4D・5D区に所在する建物です。桁行3間（5m）、梁行2間（2.4m）で、東側と南側に幅1mの廂が付きます。

121号建物（倉庫） 南東部の7C区に所在する建物です。桁行3間（8m）、梁行3間（6m）で、見つかった建物のうち最も大きいものです。屋内に東柱を持つ高床構造の総柱建物で、柱穴もほかの建物に比べ大きく太いものです。底面には建物の重みで残された「当たり」と呼ばれる柱の痕が認められます。柱の痕から太さ15～20cmの柱を用いたことが分かります。建物構造や柱痕の状況から倉庫と推定されます。周囲にはこのほか2棟の建物がありますが、これより古くなります。



126号建物：完掘（南から）



121号建物（倉庫）：完掘（西から）

井戸 4基見つっています。いずれも素掘りの井戸で、径2m、深さ1.7mのものです。建物の近くにあります、それぞれの建物と何らかの関係があったものと思われます。なお、3号井戸の埋め土からは珠洲焼のすり鉢（13世紀）が出土しています。

84号溝（堀） 調査区の4A区～2G区へ縦断する溝です。幅3m、深さ1.7mの大規模な溝です。溝は断面V字状に鋭く掘り込まれた「薬研堀」です。埋め土を観察した限りでは、水が流れていなかったようです。掘削時に大量の排土が出たと思われるのですが、周辺には盛り土などは見られません。どのような目的でつくられたかは検討を要しますが、村の内と外を区画する堀と考えています。



3号井戸：完掘（西から）



84号溝（堀）：掘削途中（北から）